

# 環境アセスメント検定 自然環境編②

2017年 8月ver. 1.00

発行 環境アセスメント学会  
<http://www.jsia.net>

環境アセスメント学会

## はじめに

環境アセスメント学会では、環境アセスメントに関心を持っているさまざまな分野の研究者や実務家などが交流して、環境アセスメントの学術・技術的發展と普及、国民各層の理解促進、適正な実施の推進、持続可能な社会の構築に寄与することを目的として活動を行っています。

「環境アセスメント検定」は、日頃、環境問題に関心のある市民や学生の方々が、これまでのご自身の経験や知識について「環境アセスメント」の観点からどの程度理解しているかを自己判断するための検定です。

ここに挙げた問題は50問であり、多岐にわたる環境アセスメントの一部ではありますが、今後とも問題を追加して行く予定としていく予定です。この検定を通して、いろいろな事業に皆さまの関心が深まり、その言動を通じて、事業がより「持続可能な環境配慮した事業」になれば幸いです。

## 目次

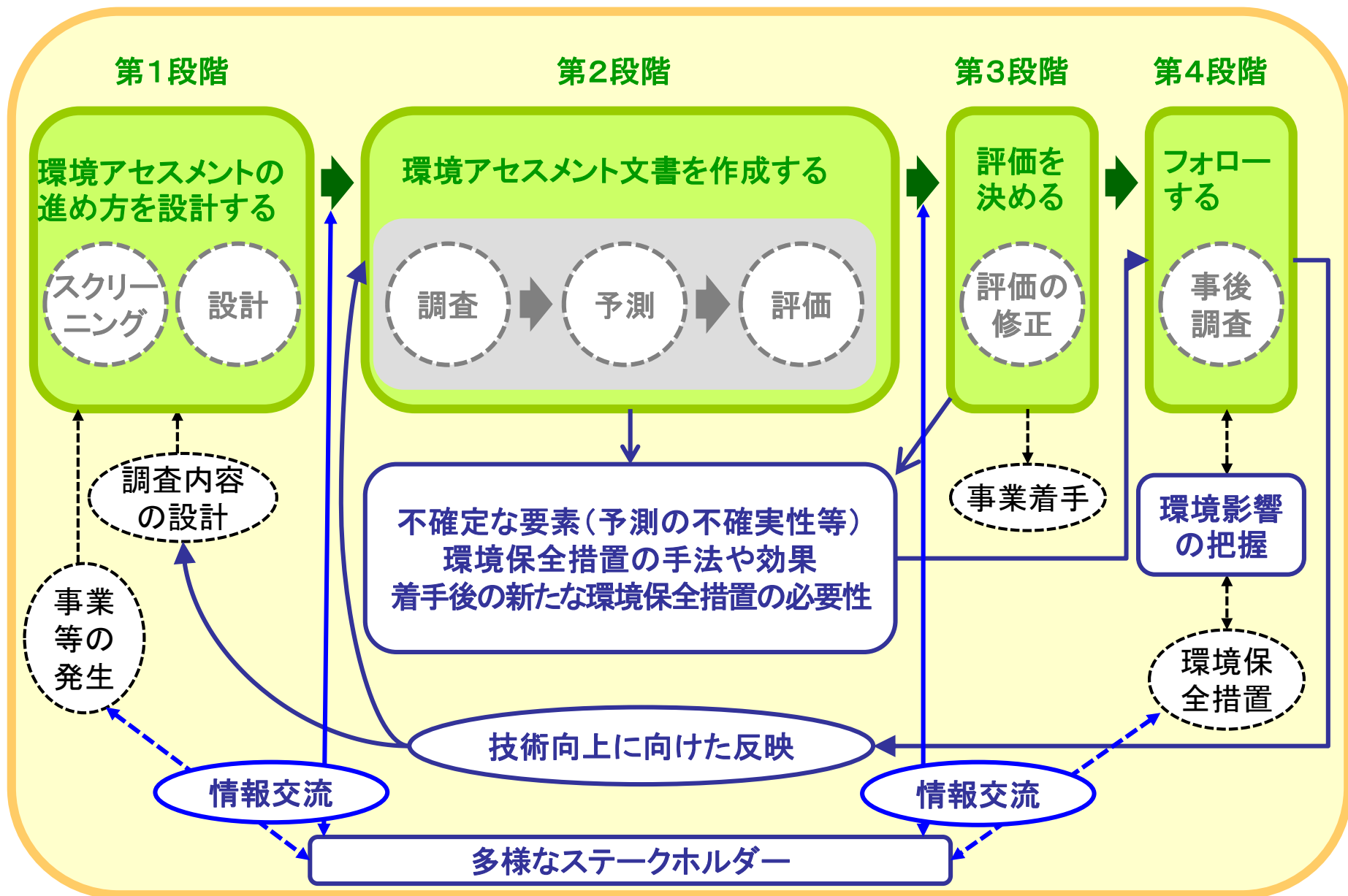
はじめに  
環境アセスメントの流れ

【問題】  
【回答用紙】  
【参考資料】

### この冊子の目的:

1. 産学官民が集まった環境アセスメント学会として、本来あるべき環境アセスメントの理解・普及・発展を図る。
2. 環境アセスメントに携わる事業者、実務者、行政担当者、環境審査会メンバーなどの専門家、市民・NGOに基本的な情報を示す。
3. 環境を学ぶ学生の学習資料としての役割も果たす。
4. 冊子に対する意見も期待する。それを踏まえて、内容の充実を図る。

# 環境アセスメントの流れ



## 【問題】自然環境編②

問1：土地分類図（地形分類）は、国土交通省が管轄している。  
(1) ○ (2) ×

問2：主要動植物地図は、環境省が管轄している。  
(1) ○ (2) ×

問3：文化財地図は、文部科学省が管轄している。  
(1) ○ (2) ×

問4：森林基本図は、林野庁が管轄している。  
(1) ○ (2) ×

問5：沿岸海域地図は、国土地理院が管轄している。  
(1) ○ (2) ×

問6：湖沼図は、環境省が管轄している。  
(1) ○ (2) ×

問7：植物相の調査は、植物の出現時期や開花・結実期の違いを考慮して、季節を変えて1年に複数回おこなうことが基本である。  
(1) ○ (2) ×

問8：植物群落の調査では、優占種が同じでも地形等の違いで構成種が異なることがあるため、立地の違いを考慮して複数の調査区を設けることが基本である。  
(1) ○ (2) ×

問9：植物相の調査では、河床・池沼・崖地など特殊な立地も通るように踏査ルートを設定することが基本である。  
(1) ○ (2) ×

問10：植物群落の地点は、種数を比較するために、どの群落についても同じ面積で調査することが基本である。  
(1) ○ (2) ×

## 【問題】自然環境編②

問11：植物相調査では、法律による採取の規制がある場合や個体数が少ない場合を除いて、証拠標本を採集しておくことが基本である。

(1) ○ (2) ×

問12：春植物(カタクリに代表される)の生育立地の特性を把握し、影響を予測するために有効な調査として、生育地の林冠の光環境を季節ごとに継続測定する。

(1) ○ (2) ×

問13：春植物(カタクリに代表される)の生育立地の特性を把握し、影響を予測するために有効な調査として、生育地の土壤水分含量を季節ごとに継続測定する。

(1) ○ (2) ×

問14：日本の自然環境の特徴として、屋久島・種子島と奄美大島の間にかかれた渡瀬線、本州と北海道の間にかかれたブラキストン線により植物地理区で区分される。

(1) ○ (2) ×

問15：植生自然度とは、植生に対する人為の影響の度合いにより、日本の植生を10の類型に区分したもの。ただし植生自然度は高ければ高いほど良いという、単一の価値尺度として捉えるべきものではなく、長年にわたる人と自然とのかかわりあいの中で形作られてきた自然の姿を表す類型区分のひとつとして考えるべきである。

(1) ○ (2) ×

問16：代償植生とは、植物群落にさまざまな人為的影響が加えられた後に成立した植生をさす。自然植生の対語として使われる。農耕地や人工林などのほか、刈り取り、伐採などによって成立した里山や草原などは除く。

(1) ○ (2) ×

問17：海域の砂浜、特にその潮間帯は海岸の中で、最も生物相が貧弱であるが、コドラート調査による定量的調査で対応する。

(1) ○ (2) ×

問18：海域の岩礁域の定量調査としてのコドラート調査では、原則的に永久コドラートの設置による採集(非破壊)調査を行い、海藻や移動性生物の現存量測定を行う必要がある。

(1) ○ (2) ×

問19：海生生物の調査結果のまとめにおいて、生物群集の特徴と生息環境条件を知ることが必要であるが、各生物群を代表する種類を「優占種」という。海藻の場合は湿重量の多い順に優占種となる。

(1) ○ (2) ×

問20：植物プランクトンの採集方法には、北原式採水器やバンドーン型採水器が一般的に用いられる。

(1) ○ (2) ×

## 【問題】自然環境編②

問21：磯焼とは、多くの種類の海藻が減少し、サンゴモ（石灰藻）と呼ばれる、うすいピンク色をした硬い殻のような海藻が、海底の岩の表面を覆いつくした状態を言う。

(1) ○ (2) ×

問22：生態系の機能には環境の形成・維持、物質生産・循環などがある。

(1) ○ (2) ×

問23：レッドデータブックが、環境アセスメントで活用され、一般市民への普及・啓発が進むことや、絶滅の危機にある野生生物の現状が的確に把握されることなどが期待される。

(1) ○ (2) ×

問24：環境省の他にも、学術団体、都道府県等の地方公共団体などによりレッドデータブックが発行準備され始めた。

(1) ○ (2) ×

問25：環境省のレッドデータブックは、1993年にはじめて種の保存法「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」が施行されてから、希少野生動植物の指定や絶滅危惧種の保全・保護方策のためにまとめたものである。

(1) ○ (2) ×

問26：環境省のレッドデータブックでは、カテゴリーの絶滅危惧I類、絶滅危惧II類に位置づけられたものが「絶滅のおそれのある種」とされている。

(1) ○ (2) ×

問27：特定外来生物とは、海外起源の外来生物であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定される。

(1) ○ (2) ×

問28：生態系サービスとは、人々が生態系から得ることのできる便益のことで、食料・水などの供給サービス、気候の安定や水質の浄化などの調整サービス、レクリエーションや精神的な恩恵を与える文化的サービス、栄養塩の循環や土壌形成、光合成などの基盤サービスなどがある。

(1) ○ (2) ×

問29：生物相とは、ある地域に生息する代表的な生物種をいう。植物を対象とした場合は植物相、動物を対象とした場合は動物相という。

(1) ○ (2) ×

問30：外来生物のアレチウリが管理放棄された二次林に侵入して繁茂し、樹木を枯損させる被害が生じている。

(1) ○ (2) ×

## 【問題】自然環境編②

問31：利用されなくなった竹林のモウソウチクが拡大し、周囲の社寺林や雑木林に侵入して、樹林を衰退させている。

(1) ○ (2) ×

問32：緑化・砂防用に導入されたシナダレスズメガヤが逸出し、河川敷で繁殖して本来の河原の植物の生育地を奪っている。

(1) ○ (2) ×

問33：ハブの駆除を目的に南西諸島に持ち込まれたジャワマングースが、在来の小型哺乳類や爬虫類を捕食し、個体数を減少させている。

(1) ○ (2) ×

問34：逸出した台湾ザルが在来のニホンザルと交雑し、雑種をつくっていることが確認されている。

(1) ○ (2) ×

問35：景観法では、都市部だけでなく農村部、自然公園なども対象としている。

(1) ○ (2) ×

問36：地盤環境の環境影響評価を行う際には、「地盤環境の特徴・特性」や「周辺における水循環の捉え方」などについて、既存資料や現地調査から十分な把握を行う必要がある。

(1) ○ (2) ×

問37：帯水層とは、地下水が蓄えられている地層、通常は、粘土などの不透水層（水が流れにくい地層）には含まれた、砂や礫（れき）からなる多孔質浸透性の地層をさす。

(1) ○ (2) ×

問38：地質という概念は、ある地域の土地を構成する岩石や地層の種類だけでなく、それらの重なり方（層序）や空間的配置、それらが生成された歴史（地史）等も包括するものである。

(1) ○ (2) ×

問39：地形は、「地表の形状」を示す語であるが、その形成には「地質的要因」が密接に関わるために、一般には「地形・地質」を一括して扱う場合が多い。

(1) ○ (2) ×

問40：地盤とは、土木・建築分野や防災分野等で対象とする構造物の「地面」や「地下のある範囲」を限定して示すものである。

(1) ○ (2) ×

## 【問題】自然環境編②

問41：重要な地形・地質を学術上の観点から選定する場合、典型性とは、成因、特性、産状等の点で典型的な地形・地質の状態を示すもの。

(1) ○ (2) ×

問42：重要な地形・地質を学術上の観点から選定する場合、代表性とは、日本・郷土・地域の自然特性を代表する又は特徴づける地形・地質。

(1) ○ (2) ×

問43：重要な地形・地質を学術上の観点から選定する場合、固有性とは、規模や特徴が傑出している地形・地質。

(1) ○ (2) ×

問44：重要な地形・地質を学術上の観点から選定する場合、脆弱性とは、環境の変化の影響を受けやすい地形・地質。

(1) ○ (2) ×

問45：重要な地形・地質を学術上の観点から選定する場合、特異性とは、寒冷地域や石灰岩地域など特殊な成立環境に依存している地形・地質。

(1) ○ (2) ×

問46：柱状節理がみられる玄武岩・安山岩は、重要な地形・地質に該当する。

(1) ○ (2) ×

問47：鍾乳石のある石灰岩は、重要な地形・地質に該当する。

(1) ○ (2) ×

問48：カルスト地形は、重要な地形・地質に該当する。

(1) ○ (2) ×

問49：地すべり地形は、重要な地形・地質に該当する。

(1) ○ (2) ×

問50：自然海岸地形は、重要な地形・地質に該当する。

(1) ○ (2) ×



# 【回答用紙】自然環境編②

問題	回答
問 1	
問 2	
問 3	
問 4	
問 5	
問 6	
問 7	
問 8	
問 9	
問10	
得点	/10

問題	回答
問11	
問12	
問13	
問14	
問15	
問16	
問17	
問18	
問19	
問20	
得点	/10

問題	回答
問21	
問22	
問23	
問24	
問25	
問26	
問27	
問28	
問29	
問30	
得点	/10

問題	回答
問31	
問32	
問33	
問34	
問35	
問36	
問37	
問38	
問39	
問40	
得点	/10

問題	回答
問41	
問42	
問43	
問44	
問45	
問46	
問47	
問48	
問49	
問50	
得点	/10

合計 点

- ・ 45～50点 = 「S」
- ・ 40～44点 = 「A」
- ・ 35～39点 = 「B」
- ・ 30～34点 = 「C」
- ・ 30点未満 = 「D」 解説を読んで再度チャレンジしましょう

## 【参考資料】

- ・ 環境アセスメント用語集  
<http://www.env.go.jp/policy/assess/6term/index.html>
- ・ 環境アセスメント制度のあらまし  
[http://www.env.go.jp/policy/assess/1-3outline/img/panph\\_j.pdf](http://www.env.go.jp/policy/assess/1-3outline/img/panph_j.pdf)
- ・ 環境アセスメントを活かそう「環境アセスメントの心得」  
[http://www.jsia.net/6\\_assessment/kokoroe/kokoroe.pdf](http://www.jsia.net/6_assessment/kokoroe/kokoroe.pdf)
- ・ 環境アセスメント審査会ってな～に？  
「環境アセスメント審査会のあり方」  
[http://www.jsia.net/6\\_assessment/kokoroe/na-ni2.pdf](http://www.jsia.net/6_assessment/kokoroe/na-ni2.pdf)
- ・ 環境アセスメントにおける調査ってな～に？  
「調査の在り方～事後調査を中心に～」  
[http://www.jsia.net/6\\_assessment/kokoroe/na-ni1.pdf](http://www.jsia.net/6_assessment/kokoroe/na-ni1.pdf)
- ・ スモールアセスの勧め「自主アセス・ミニアセスなどを中心に」  
[http://www.jsia.net/6\\_assessment/kokoroe/small.pdf](http://www.jsia.net/6_assessment/kokoroe/small.pdf)
- ・ 環境アセスメント学の基礎（環境アセスメント学会 編）  
出版社：恒星社厚生閣  
[http://www.jsia.net/4\\_publishing/10th/title.pdf](http://www.jsia.net/4_publishing/10th/title.pdf)
- ・ EICネット  
<http://www.eic.or.jp/>
- ・ 環境アセスメント技術ガイド  
（自然環境研究センター 平成 14 年 10 月）